

明神さま

宇都宮二荒山神社



敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、
太平を開くの基である。
神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、
人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。
ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、
実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、
明き清きまことを以て

祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、
神のみこともちとして
世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、
国の隆昌と世界の共存共栄とを
祈ること

特集 これからの宇都宮を語り合おう！

宇都宮市長・宇都宮商工会議所会頭

宇都宮市商店街連盟会長と二荒山神社の

宮司が描く「これからの宇都宮」

宇都宮市長

宇都宮商工会議所会頭／神社責任役員

宇都宮市商店街連盟会長／氏子総代会長

二荒山神社宮司

佐藤 栄一氏

関口 快流氏

齋藤 高蔵氏

阿部 徳氏

宇都宮市は昨年度、市制120周年を迎えました。今年新しい時代へのスタートラインの年。宇都宮の経済や街の姿も変わりつつあります。そこで、宇都宮市を代表する皆さんに、宇都宮市の長所やこれからの展望を話していただきました。

宇都宮市にはこんな長所がある！

Q 宇都宮市のよいところについて、どんなことを感じていますか。

佐藤 ● 宇都宮市は豊かな自然に恵まれています。二荒山神社を中心に、江戸時代には宇都宮城の城下町として経済・文化が発展しました。現在は、商業・工業・農業が盛んな県都として、北関



● 宇都宮市長 佐藤 栄一氏

東最大の52万人都市として栄えています。これは大きな魅力ですね。

関口 ● まさに、宇都宮市は北関東の

要の街だと感じています。何より、交通の要所ですね。明治以

前は日光や東北への玄関口として栄えました。明治以後は、東北本線が早い時期に開業したことで、軍都であったことなどから、大きな繁栄がありました。ですから人材も集まり、資本も集まったことが、宇都宮の街を形作ってきたのではないのでしょうか。

齋藤 ● そうですね。

宇都宮市は二荒山神社を中心に街が広がって来ました。これからもずっとそう

あって欲しいと、私は思います。近年は、地方都市は空洞化が唱えられ、宇都宮市も決して例外ではありません。私たち商店街もいろいろ努力を重ねていますが、行政にもぜひ、これまで以上のお力添えをいただけたらと感じています。

阿部 ● 宇都宮市というのは、割合に欠点が少ない街だと思えます。佐藤市長がおっしゃるとおり自然に恵まれ、関口会頭のお言葉のとおり交通の要所でもある。商業も工業も農業も、実にバランス良く按配されていると感じています。



● 宇都宮商工会議所会頭 関口 快流氏



● 宇都宮市商店街連盟会長 齋藤 高蔵氏

それだけに、逆に長所が見えづらくなっているかも知れませんが、他所から来た方たちにはよく見えている長所を、宇都宮市民が自覚していないことも少なくないでしょう。良い所を再認識することではないでしょうか。



● 二荒山神社宮司 阿部 徳氏

魅力ある観光資源を、どう活かすか。

佐藤 ● 餃子やカクテル、ジャズ、大谷石など、魅力ある観光資源もたくさんありますものね。

関口 ● そうそう。特に餃子は全国区ですね。私などは餃子で育ってきたという気持ちです。部活が終わると、後輩を連れて餃子屋へよく行ったものですよ。そして腹一杯食べさせるのが、先輩の役目でした。

佐藤 ● スポーツも盛んです。栃木SC（サッカー）、宇都宮プリツェン（自転車ロードレース）、栃木ブルックス（バスケット）の3つのプロスポーツチームが、宇都宮市を拠点に活動してい



▲ 栃木SC 必勝祈願

ます。

齋藤 ● 栃木ブレックスは昨年リーグ優勝をとげ、盛大なパレードを開催しましたね。

関口 ● あれは壮観でした。宇都宮商工会議所青年部も中核となって活躍しました。



▲今年6月の栃木ブレックス優勝パレード

佐藤 ● アジア最高位の自転車ロードレース「ジャパンカップサイクルロードレース」や、二荒山神社前のパンバひろばで開催される3人制バスケットボール世界大会「FIBA3x3ワールドツアー」つのみやマスターズ」など、世界レベルのスポーツ観戦もできるようになりました。非常にありがたく感じています。



▲スーパーカーミーティング2017 in パンバひろば

関口 ● ジャパンカップの一環のクリテリウムは、スピード感があって、多くの人を楽しませてくれます。

齋藤 ● 3人制バスケットボールも人気が高く、商店街にとって大きなプラスになります。しかし神社の広場で、よくああったイベントが開催できましましたね。

阿部 ● 私は、神社は開かれた場所ではなくてはいけな
いと考えています。もちろん静謐せいへいさも必要ですが、同時に明るく元気がでる場所にしなければ、
とも思っています。

もともと神道というのは、自由な信仰心に支えられてきたと考えています。ですから、これまで習慣としてやってきたことも見直して、街の発展に寄与することであれば、できるだけお手伝いさせていただきます。

齋藤 ● 二荒山神社は、これまでの歴史文化の中で大きな役割を果たして来られましたからね。宮司がおっしゃるとおり「明るく元気が出る場所」になってくれたら、非常にすばらしいと思います。

佐藤 ● また、民間の調査では宇都宮市は住みよさランキングで5年連続全国第1位です。

人口50万人以上の都市の中で、

「住みよさ度」5年連続第1位

「共働き子育てしやすい街」第3位

「財政健全度」第3位

という調査結果が出ています。暮らしやすく子育てしやすいまちとして、高く評価されています。

齋藤 ● この高評価は、佐藤市長の掲げるネットワーク型コンパクトシティが、徐々に形になってきたことも、大きいのではないのでしょうか。

その一方で、これは私の持論なのですが、街の中心部に公共施設があればと願っています。図書館や美術館などは、現在は郊外にあります。が、これらが戻ってきてくれると、さらに良いと感じています。

関口 ● そういった施設があれば、便利でしょうね。

魅力アップにもつながりますね。宇都宮市の中心部の空洞化は大きな課題ですから、商業施設だけではなく文化施設の充実も重要でしょう。

「未来都市うつのみや」の創造

Q これからの宇都宮についての想いをお聞かせ下さい。

佐藤 ● 今後、宇都宮市だけでなく全国的に、人口減少や少子高齢化の時代を迎えます。そのような時代であっても、本市が五十年、百年先まで持続的に発展していくためには、子どもから高齢者、障がい者など市民一人ひとりが輝き、まちの活力あふれる「未来都市 うつのみや」を実現していく必要があると思います。

そのために、健康づくりや福祉の充実をはじめ、地域経済の活性化や安全・安心な生活環境づくりなどに取り組み、今を生きる市民がいつでも幸せに生活できるまちを築いていきたいと考え、努力しています。

関口 ● 先ほども言いましたが、宇都宮市だけではなく全国的に「地方都市の空洞化」が進んでいます。近年は空き家や空き店舗が増えています。

バブル時代に外へ外へと発展したのですが、それが広がり過ぎた上に、景気後退や人口減少によってダメージを受けているとあっていいでしょうね。それを、何とか賑わいのある街に復活させたいと考えているところです。

齋藤 ● 高度成長期からバブル期にかけて、外へ外へと広がっていききましたが——企業活動でも同じですが、広げるよりも収縮させる方がエネルギー

ギーも使いますし、難しいのです。そこをどう上手に狭めて、宇都宮市全体のポテンシャルをアップするかを、考えていかななくてはなりません。

関口●その一つとして、再開発がありますね。

齋藤●そうですね。基本的には民間がやるべきものですが、こういう時代ですからどうしても行政に力を貸していただく必要が、出て来ます。先ほどの「中心部に図書館、美術館などの公共施設を」というのも、行政の力を借りないと進みません。人のあつまる仕掛けをたくさん創り出せたなら、新しい宇都宮が生まれると思います。

阿部●中心部の居住人口も増えつつあるようです。

齋藤●今度は逆に、生活に密着した業種の店舗が不足しかねないですね。これまでの商店街とは、求められるポイントが変わって来ると思います。それにどう対応していくかが、重要ではないでしょうか。

阿部●私は、大きな商業施設も必要ですけども、商店街が充実することが不可欠だと考えています。大きな建物ですと、中に入ってしまうと外からはどのくらい人がいるのか判らないでしょう。それよりも、商店が軒を連ねる商店街であれば、人のにぎわいがハッキリ伝わります。



▲にぎやかな宇都宮市／ふるさと宮まつり

関口●にぎわいが大切ですよ。ですから、やはり中心部は商業の街であって欲しいと思います。

賑わいができれば、文化も生まれます。まずはお店が栄えることでしょうか。会議所の役割の一つも、そこにあるのではないのでしょうか。

それから、中心市街地とは少し離れた話題ですが、やはり大谷の力をもっと活かすことが重要でしょう。それが宇都宮全体にとってプラスになると思います。

佐藤●それから、宇都宮市としては、将来を担う子どもたちを育む子育てや教育の充実を図っていきます。さらに、本市のまちづくりの姿である

「ネットワークコンパクトシティ」を形成するため、病院や子育て・福祉施設などの日常生活を支える機能をコンパクトなエリアに集約する「拠点化の推進」と、それらの拠点を円滑に移動できるよう東西の基幹公共交通となる「LRT」を基軸とした階層性のある「公共交通ネットワークの構築」に取り組んでいきます。このように、今後も「未来を見据えたまちづくり」を進めていきます。

阿部●「社会」「社交」といった言葉が「社で会う」

「社で交わる」と書くように、神社は昔から人々が出会い、交わる場所であり、そこから地域社会が生まれ育ってきました。だからこそ、現代において「開かれた神社」であることが重要だと考えています。これからも二荒山神社は、地域に開かれ、地域に元気をもたらす存在でありたいと願っています。どうぞよろしく願っています。

(構成／岩崎剛典)

責任役員氏子総代改選のご報告
宇都宮二荒山神社では、本年責任役員並びに氏子総代の改選(任期三年)により左記の方々のご就任されました。

責任役員 齋藤 高蔵
責任役員 野澤 秀熙
責任役員 福田 治雄
責任役員 船田 元流
責任役員 関口 快明
責任役員 若松 豊明

氏子総代

会長 齋藤 高蔵
副会長 野澤 秀熙
副会長 福田 治雄
幹事長 北村 光弘
幹事長 篠崎 昌平
幹事長 福田 勝美
幹事長 高橋 勝郎
幹事長 池田 一樹
幹事長 荒井 恵樹
幹事長 堀井 宏祐
神祇町 中井 剛夫
神祇町 清水 明夫
神祇町 長島 俊夫
神祇町 松本 功史
神祇町 金田 大史
神祇町 谷田部 峻史
神祇町 田中 洋一
神祇町 鈴木 郁夫
神祇町 小谷 儀一
神祇町 鱒野 孝男
神祇町 田代 暢雄
神祇町 辻 裕司

神社の護持運営また神事の斎行にご尽力いただきます。

氏子世話人様、町会の皆様方何卒宜しくお願い致します。



天王祭

平成30年 7月 (文月)

日	月	火	水	木	金	土
1 仏滅	2 大安	3 赤口	4 先勝	5 友引	6 先負	7 仏滅
8 大安	9 赤口	10 先勝	11 友引	12 先負	13 赤口	14 先勝
15 友引	16 先負	17 仏滅	18 大安	19 赤口	20 先勝	21 友引
22 先負	23 仏滅	24 大安	25 赤口	26 先勝	27 友引	28 先負
29 仏滅	30 大安	31 赤口				



雅楽



うつのみやの「いろは坂」



境内除草奉仕

平成30年 8月 (葉月)

日	月	火	水	木	金	土
			1 先勝	2 友引	3 先負	4 仏滅
5 大安	6 赤口	7 先勝	8 友引	9 先負	10 仏滅	11 先勝
12 友引	13 先負	14 仏滅	15 大安	16 赤口	17 先勝	18 友引
19 先負	20 仏滅	21 大安	22 赤口	23 先勝	24 友引	25 先負
26 仏滅	27 大安	28 赤口	29 先勝	30 友引	31 先負	

宰鳥蕪村句碑の記

伊勢守蕪村は、寛保二(一七四二)年歳末に宇都宮の俳人佐藤義隆の約を以て本市に滞在。翌年正月に蕪村最初の「蕪村句」を編纂発行した。それは表紙に、「この碑の上部にあるように四の中に数字の文字をあらわす」と、ユニークなものであった。「寛保四年(一七四四)年夏、蕪村が、野附守宮(蕪村句碑)に、句碑を建立した。その中で蕪村は、それまで使っていた「宰鳥」の字で、いふふふの宮に「宰鳥」の字を記し、その碑に、やむを得ず「宰鳥」と前置して、この碑である。

蕪村は「宰鳥」の字を記した。これは「宇都宮」一荒山神社の社理で、蕪村の夜明けを迎えた蕪村、勢よく昇つた蕪村の夜明けを迎え、この地で蕪村としての第一歩をあげた蕪村に記している。また表紙にも「蕪村」と「宰鳥」の字を記している。この字を記した蕪村、今までのように知られていなかった蕪村を、改めて思い出した。このように多くの方々のご支援のおかげで、その事蹟を顕彰するためにここに記念の句碑を建立した。

なげこの「蕪村句」で初めて「蕪村」の字を用いている。

古庭に燈籠、きぬめいすから 蕪村

平成十一年十一月 蕪村 顕彰会
宇都宮一荒山神社

この碑は、寛保二(一七四二)年歳末に宇都宮の俳人佐藤義隆の約を以て本市に滞在。翌年正月に蕪村最初の「蕪村句」を編纂発行した。それは表紙に、「この碑の上部にあるように四の中に数字の文字をあらわす」と、ユニークなものであった。「寛保四年(一七四四)年夏、蕪村が、野附守宮(蕪村句碑)に、句碑を建立した。その中で蕪村は、それまで使っていた「宰鳥」の字で、いふふふの宮に「宰鳥」の字を記し、その碑に、やむを得ず「宰鳥」と前置して、この碑である。



明神の井



樹齢300年以上のイチヨウ

平成30年 9月 (長月)

日	月	火	水	木	金	土
						1 仏滅
2 大安	3 赤口	4 先勝	5 友引	6 先負	7 仏滅	8 大安
9 赤口	10 友引	11 先負	12 仏滅	13 大安	14 赤口	15 先勝
16 友引	17 先負	18 仏滅	19 大安	20 赤口	21 先勝	22 友引
23 先負	24 仏滅	25 大安	26 赤口	27 先勝	28 友引	29 先負

平成三〇年(二〇一八年)二荒山神社祭礼暦

大祭

中祭

小祭

遙拝・末社祭



花会祭

平成30年 4月 (卯月)

日	月	火	水	木	金	土
1 大安 ●	2 赤口	3 先勝 ●	4 友引	5 先負	6 仏滅	7 大安
8 赤口	9 先勝	10 友引	11 先負 ●	12 仏滅	13 大安	14 赤口
15 先勝	16 先負	17 仏滅	18 大安	19 赤口 ●	20 先勝	21 友引
22 先負	23 仏滅	24 大安	25 赤口	26 先勝	27 友引	28 先負
29 仏滅 ●	30 大安					



田舞祭

永代太々神楽祈禱祭

平成30年 5月 (皐月)

日	月	火	水	木	金	土
		1 赤口 ●	2 先勝	3 友引	4 先負	5 仏滅
6 大安	7 赤口	8 先勝	9 友引	10 先負	11 仏滅	12 大安
13 赤口	14 先勝	15 仏滅 ●	16 大安	17 赤口	18 先勝	19 友引 ●
20 先負	21 仏滅	22 大安	23 赤口	24 先勝	25 友引	26 先負
27 先負	28 大安 ●	29 赤口	30 先勝	31 友引		



大祓式

夏越祓・茅の輪潜り

平成30年 6月 (水無月)

日	月	火	水	木	金	土
					1 先負 ●	2 仏滅
3 大安	4 赤口	5 先勝	6 友引	7 先負	8 仏滅	9 大安
10 赤口	11 先勝	12 友引	13 先負	14 大安	15 赤口 ●	16 先勝
17 友引	18 先負	19 仏滅 ●	20 大安	21 赤口	22 先勝	23 友引
24 先負	25 仏滅	26 大安	27 赤口	28 先勝	29 友引	30 先負 ●

平成三〇年(二〇一八年)二荒山神社祭礼曆

● 大祭

● 中祭

● 小祭

● 遙拝・末社祭



初詣

春渡祭 (おたりのや)

平成30年 1月 (睦月)

日	月	火	水	木	金	土
	1 先勝 ●	2 友引 ●	3 先負 ●	4 仏滅	5 大安	6 赤口
7 先勝 ●	8 友引	9 先負	10 仏滅	11 大安	12 赤口	13 先勝
14 友引	15 先負 ●	16 仏滅	17 赤口	18 先勝	19 友引 ●	20 先負
21 仏滅	22 大安	23 赤口	24 先勝	25 友引	26 先負	27 仏滅
28 大安 ●	29 赤口	30 先勝	31 友引			



厄難消除祈禱講祭



節分祭 福撒ぎ



祈年祭

平成30年 2月 (如月)

日	月	火	水	木	金	土
				1 先負 ●	2 仏滅	3 大安
4 赤口	5 先勝	6 友引	7 先負	8 仏滅	9 大安	10 赤口
11 先勝 ●	12 友引	13 先負	14 仏滅	15 大安	16 先勝	17 友引 ●
18 先負	19 仏滅 ●	20 大安	21 赤口	22 先勝	23 友引	24 先負
25 仏滅	26 大安	27 赤口	28 先勝			



初辰稲荷初午祭



春季皇霊祭 遙拝

平成30年 3月 (弥生)

日	月	火	水	木	金	土
				1 友引 ●	2 先負	3 仏滅
4 大安	5 赤口	6 先勝	7 友引	8 先負	9 仏滅	10 大安
11 赤口	12 先勝	13 友引	14 先負	15 仏滅 ●	16 大安	17 友引
18 先負	19 仏滅 ●	20 大安	21 赤口 ●	22 先勝	23 友引	24 先負
25 仏滅	26 大安	27 赤口	28 先勝	29 友引	30 先負	31 仏滅

平成三〇年(二〇一八年)二荒山神社祭礼暦

● 大祭

● 中祭

● 小祭

● 遙拝・末社祭



平成30年 10月 (神無月)

日	月	火	水	木	金	土
	1 大安 ●	2 赤口	3 先勝	4 友引	5 先負	6 仏滅
7 大安	8 赤口	9 先負	10 仏滅	11 大安	12 赤口	13 先勝
14 友引	15 先負	16 仏滅	17 大安 ●	18 赤口	19 先勝	20 友引
21 先負 ●	22 仏滅	23 大安	24 赤口	25 先勝	26 友引	27 先負 ●
28 仏滅	29 大安	30 赤口	31 先勝			



平成30年 11月 (霜月)

日	月	火	水	木	金	土
				1 友引 ●	2 先負	3 仏滅 ●
4 大安	5 赤口	6 先勝	7 友引	8 仏滅	9 大安	10 赤口
11 先勝	12 友引	13 先負	14 仏滅	15 大安	16 赤口	17 先勝
18 友引	19 先負 ●	20 仏滅	21 大安	22 赤口	23 先勝 ●	24 友引
25 先負	26 仏滅	27 大安	28 赤口	29 先勝	30 友引	



平成30年 12月 (師走)

日	月	火	水	木	金	土
						1 先負 ●
2 仏滅	3 大安	4 赤口	5 先勝	6 友引	7 大安	8 赤口
9 先勝	10 友引	11 先負	12 仏滅	13 大安	14 赤口	15 先勝
16 友引	17 先負	18 仏滅	19 大安 ●	20 赤口	21 先勝	22 友引
23 先負 ●	24 仏滅	25 大安	26 赤口	27 先勝	28 友引	29 先負
	30 仏滅	31 大安 ●				

平成三〇年(二〇一八年)二荒山神社祭礼暦

● 大祭

● 中祭

● 小祭

● 遙拝・末社祭

宇都宮のおまつり今昔

「おたりや」は年の初めの1月15日「春渡祭」と、年の終り12月15日「冬渡祭」の年2回行うおまつりです。歴史の大変古い祭礼で、神輿渡御と焚き上げ神事が行われます。

焚き上げ神事は「お焚き上げ」という呼び名で親しまれています。一年間神棚に飾った破魔矢などのお飾りを、感謝の心とともに浄火で燃やすことです。お年寄りに「お焚き上げの煙を浴びると一年間無病息災だよ」と教えられた人も、多いのでは？

写真は、昭和初期のものと思われます。中央の御神輿を取り囲む人々の中に、田楽舞人や氏子総代などの他に、町会の名入の高張提灯が多数連なる様子が写されています。



▲現在の神輿渡御



▲田楽舞の奉納

巫女さんに聞いた!

二荒山神社のあれこれ

宇都宮の「いろは坂」はどこでしょう？

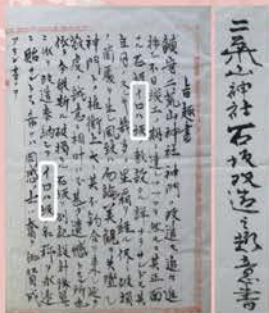
宇都宮に「いろは坂」があること、ご存知ですか？

二荒山神社の正面石段は、毎日たくさんの方が登られています。宮っ子で、これまで石段を登ったことがない——という人は、滅多にいないでしょう。

この石段は、全部で95段あります。そのうち中段から上は48段、ちょうど「いろは歌」と同じ数です。そこで昔は「いろは坂」と呼ばれていました。

大正六年に奉納された神門の額や、同じく大正時代の神社文書に、はっきりと「以呂波坂」「イロハ坂」と書かれています。きつと当時はその名前で親しまれていたのでしょうか。二荒山神社にお参りに来られた方は、イロハ四十八文字をしっかりと踏みしめる気持ちで、登って来られたに違いありません。

「いろは坂」は緑に囲まれ、皆様に愛される参道です。これからも宮の中心の憩いの場として、大切に守ってまいります。



▲大正時代の神社文書にも「イロハ坂」と書かれています。



▲神門の奉納額（大正時代）には、「以呂波坂」と刻まれていた。





「破魔弓・はまゆみ」
破魔弓は魔障を払い除くという神用の弓矢をかたどったものです。お正月より新春の縁起物として授与いたします。

「幸せつむおみくじ」

ご当地おみくじ登場！
(準備中です)



あうん 開運絵馬

「神社の社殿前に狛犬は据え置かれる。一对で阿吽の相をする。阿吽で宇宙の総てを包含する意味を持つ。魔除けの効があるとされる。」

日本拓版画会 会長 坂本富男先生

厄年と数え年

厄年とは災難や障りが身に降りかかりやすいとされる年のことです。数え年で、**男性は 25 歳・42 歳・61 歳、女性は 19 歳・33 歳・37 歳**が厄年にあたり、その前後を前厄・後厄といって忌み慎まねばならない年とされます。
厄年を迎えると、神さまのご加護をいただいて災厄が身に降りかからないよう、神社にお参りして厄除のお祓いをうけます。
厄年の頃はちょうど身体の変調期や社会環境の変わり目にも当たり体調を崩しやすいものですので、普段よりも健康に気を使い、かといってあまり神経質にならずに、気持ちを落ち着かせて過ごすことが大切でしょう。
数え年は、生まれた年を一歳とし、以後お正月になると一歳を加えて数える年齢です。
人はこの世に生をうけると神さまから一つ年をいただき一歳になります。そして正月を迎えると皆そって一つ年をとります。
古来より日本人は年をとるのを単なる時間の流れではなく、新年には神さまから新しい「いのち」をいただきその時に年をとると考えてきました。



ただいま、新年を迎える準備を始めております。どうぞご家族おそろいで初詣にお参りください。

年の初めに…

お伊勢さまと氏神さま・鎮守さまのお神札をおまつりしましょう

皇室の御祖先である、天照大御神をおまつりするのが、三重県伊勢市に鎮座する皇大神宮(内宮)です。

この皇大神宮のお神札が「神宮大麻」で「お伊勢さま」・「お祓いさま」とも呼ばれ広く親しまれております。

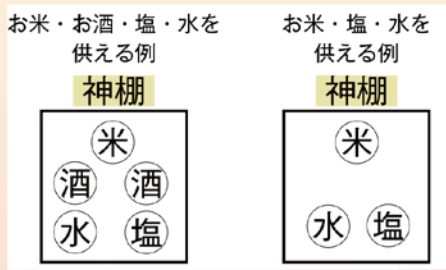
毎年地域の神職や総代さんを通してお配りする神宮大麻をご家庭でおまつりいただくことにより、日々の生活に大御神の広大無辺のご神徳を戴くことはもちろんのこと、延いては日本が平和で豊かであることにも繋がっていきます。

新年を迎えるにあたり、新しく神宮大麻と共に、地域をお守り下さる氏神さま・鎮守さまのお神札も一緒におまつりして、ご家庭の一年の無事と幸せを祈りましょう。

神棚にはお米・お塩・お水をはじめ季節の初物等をお供えし、日々の暮らしに感謝のきもちを込めて

- 二拜 (深くお辞儀を二回)
- 二拍手 (手を二回たたく)
- 一拝 (深くお辞儀を一回)

の作法にてお参りしましょう。



▲お供えの一例
一年間お守りいただいたお神札は感謝を込めて、氏神さま・鎮守さまに納めましょう。



▲重ねてまつる場合



▲横に並べてまつる場合



有限会社 高林堂

郷土の歴史とともに和菓子の味を伝える

創業は明治18年。「宮のかりまん」でおなじみの高林堂は、二荒山神社にも程近い千手町に産声を上げました。以来、宇都宮の歴史とともに歩み、日々人々の暮らしに寄り添う菓子を作り続けています。「明治18年といっても、残っている資料がその頃までで、もっと古くから営んでいたかもしれません」と語る和氣康匡さん。昨年、代表取締役役に就任した老舗の若きリーダーです。伝統に学び、古いものを大切にしつつ新しい発想や技術との融合が信条。「かりまん」もそうした姿勢が生み出した傑作菓子のひとつです。また、地域密着を旨とし、天王祭や地域の行事にも積極的に参加して盛りたてています。



▲季節の上生菓子を丹精込めて手づくりする和氣康匡社長。

現在、直営店が6店舗のほか、通販で全国区のブランドです。「シンガポールで催事出店したのですが、たいへん好評でした。日本のお菓子のおいしさを海外の人たちにも知っていただきたいですね」と和氣社長。地元発の銘菓は、郷土の誇りです。

住所 宇都宮市二荒町 7-4
TEL 028-633-4948
FAX 028-633-4977
HP <http://www.kourindo.jp>

料亭 明治屋

日本料理の伝統と文化を継承

広い厨房の一角に据えられた3基の神棚。「氏神様である二荒山神社と、笠間稲荷、高椅神社です。笠間稲荷は家内安全や商売の神様、高椅神社は料理の神様なんです」と語るのは、料亭明治屋4代目当主の稲葉敏明さん。大阪、京都で修行を積んだ後、宮中儀式である包丁式を執り行う包丁師として日本料理の伝統を継承。また、宮内庁御用として、たびたび皇族方に料理を供しています。

初代がこの地に暖簾を掲げたのは明治38年。2代目の頃には料理屋として現在の礎が築かれていました。以来、伝統を重んじながらも機知に富み、創意と工夫にあふれる料理は、内外の評価も高く、美食家たちの舌を魅了しています。「二荒山神社様には「明包祭」という、毎年正月に行うまな板開きの儀式の際にお世話になっています」と稲葉社長。日本料理の歴史研究者としても大学で講義を行うなど、若い世代や後進の育成にも積極的に取り組んでいます。



▲4代目当主 稲葉敏明さん(包丁式)

住所 宇都宮市桜 5-1-3
TEL 028-635-3119
FAX 028-635-3134
HP <http://www.ryoutei-meijiya.jp>

昭和通り自治会

平成22年から昭和通り自治会長として、日々忙しく活動している木下淳さん。「体を動かすのが好きなので、毎日動きまわっています。昨日も西原小学校での納涼祭にお囃子で参加してきましたよ」と語ります。まさに昭和通りとともに育ってきた地元っ子です。昭和通り自治会は、現在58世帯。天王祭や菊水祭には、町内一丸となって参加しています。周辺は古くからの住宅街で、通り沿いには自転車屋さんやラーメン店、喫茶店などもあります。

木下さんは自治会長のほか、西原地区防災会の副会長やグリーンレンジャーとしても活動。さらに、この7月からは宇都宮市の動物愛護委員にも就任しました。「自分が体を動かすことで、育ててくれた町に恩返しできればうれしいです」と語る笑顔が印象的です。



▲昭和通り自治会会長 木下 淳さん

はなわだどうめきちょう 塙田百目鬼町自治会

県庁前通りの一本南を東西に走る「百目鬼通り」。伝説に彩られた風情あるこの小路には、今も飲食店が点在しています。「昔はもっとたくさんの店が軒を連ねていました」と懐かしむのは、塙田百目鬼町自治会会長、笹沼正さんです。「現在約80世帯、全体的に見ればやはり高齢化は進んではいますが、マンションなどもあるので、若い人も頑張っていると思います」天王祭や菊水祭には会所を設け、町内あげて参加。子ども神輿も繰り出して祭を盛りたてています。また、一昨年には毎年3月末に餅つき大会を開催。昭和小学校で開かれる地区のスポーツレクリエーション大会にも自治会として参加しています。

「祭やイベントなどで定期的に顔を合わせ、地域のコミュニケーションが深まればと思っています」



▲塙田百目鬼町自治会会長 笹沼 正さん

うつのみや
町会じまん
Vol.4

ふたあ

かわら版

二荒山神社神輿保存会

二荒山神社神輿保存会は、「二荒山神社の渡御神事に積極的に参加し、会員相互の親睦と郷土愛の育成、神事の復興に寄与する事」を目的として結成されました。昭和53年に発会し、



▲冬春渡祭渡御



▲菊水祭鳳輦渡御

二荒山氏子青年会、埴田睦会、パンパ通り商店街、宇都宮青年会議所、宇都宮市場神輿、宮壺会、うつのみやお祭りコミュニティーからなる団体です。

天王祭、菊水祭、冬・春渡祭の渡御祭のほか現在では、宮まつりやクリテリウム各種イベントへの協力など、目標理念の通り宇都宮を盛り上げるべく活動しています。

二荒山会館の営業終了案内

昭和47年に総合結婚式場として開館しました、二荒山会館は平成30年3月31日を以て、営業を終了する事となりました。

これまでご愛用頂いた皆様には、心より感謝申し上げます。

今後の建物の利用につきましては、公益施設への提供、また企業の誘致等、有効活用のため検討中です。

(事業部二荒山会館より)

伊勢研修旅行珍道中

昨年からはじめた伊勢研修旅行、今年も早速行ってまいりました。

1日目は二見興玉神社・夫婦岩に、2日目に猿田彦神社・伊勢神宮に参拝しました。

神宮での御祈禱の際には生の雅楽と舞を拝見し、荘厳な調べと所作の美しさに息をのみました。今回の研修では神社職員として見習わなければならないことばかりで大変恐縮でしたが、楽しい発見やおいしい伊勢料理も堪能し、おなかいっぱい素敵な旅でした。



初詣

お正月の交通規制

大晦日、正月の3日までは正面階段のほり一方通行となります。

危険防止、安全確保のため、ご協力の程お願い致します。

駐車場の営業について

元日(1月1日)は、終日無料開放致します。翌日より、通常営業となります。御祈禱でお越しの際は、祈禱の受付時に駐車券を提示ください。2時間無料、御参拝でお越しの際は、社務所の受付に駐車券を提示ください。30分無料の機械処理を致します。入退場ゲートが機械化されましたので、御協力お願い申し上げます。

(事業部二荒山駐車場より)

お焚き上げについて

当社のお焚き上げは、毎年

12月15日 午前9時より午後7時

1月15日 同 同 年2回です

この両日は、おたりや祭(冬渡祭・春渡祭)の祭礼日であり、両日朝、お焚き上げを行う旨、大神様に御報告申し上げる祭典を行い、「斎火」をもって、お焚き上げの行事が行われてまいりました。前記の両日以外は、松の内(正月1〜7日)も含め、防火・防災・防犯の關係上、事前お預かりのご希望には添えません。古来よりの祭礼行事の伝統はもとより、神域の護持の為に、何卒御理解御協力をお願い申し上げます。

(防火管理者より)

境内工事の案内

境内東側参道(焚き上げ所付近)の拡幅工事を行います。

初詣までには完成予定です。

スロープ化により、お参りしやすくなりますのでご利用下さい。

(管理防災課より)



神社のホームページでは、お問い合わせの多い、ご祈禱やお焚き上げに関する情報をご確認いただけます。また年2回発行の社報のバックナンバーもご覧いただけますのでご利用下さい。



宇都宮二荒山神社

スマートフォンなどでもご覧いただけます。

検索

